

大豆生育は緩慢な傾向ですが、 晴れ間を見て遅れずに中耕培土に入りましょう！

6月上旬の降雨・低温傾向によって、播種が例年よりも遅れた圃場や、5月下旬に播種したものの出芽・生育が緩慢な圃場が見られます。

この先1か月は、**降水量が平年並みか多いと見込まれるので、晴れ間を見て遅れずに中耕培土を実施し、雑草の防除と大豆の生育量確保を図りましょう。**

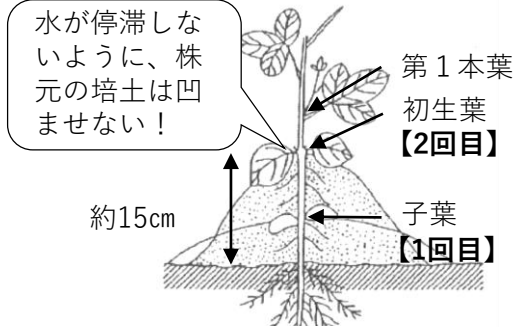
1. 中耕培土で雑草の防除、大豆の根域拡大を

【1回目のポイント】

- ◆ 適期は本葉3葉期頃（6月下旬～7月上旬）
- ◆ 土壌処理剤の処理後2～3週以降に実施。
- ◆ 子葉節まで軽く培土。

【2回目のポイント】

- ◆ 適期は本葉6～7葉期（7月中旬）
- ◆ 遅くとも開花の1週間前までに作業を終える。
- ◆ 初生葉節まで培土。株元を凹ませない。
- ◆ 追肥は中耕培土前に緩効性肥料(LPコート70で窒素成分8kg/10a)。



〈中耕培土の方法〉

播種前後の降雨の影響により、碎土が荒い場合や土壌が過湿の場合、土壌処理剤の効果が劣る可能性がある。1回目を適期に遅れずに中耕培土を行うことで、雑草を防除する。

2. 除草剤を適切に使用

昨年度、収穫時にタデ科雑草等が多く残草した圃場が目立った。雑草は、中耕培土を基本とし、茎葉処理剤を適切に使用(適用雑草と使用時期を確認)して防除する。

〈主な茎葉処理剤とその使用方法等〉

| 除草剤名 (本剤の使用回数) | 適用雑草 | 使用方法 | 使用時期 | 10a当たりの使用量 | |
|---------------------------|---------------------|----------------|---|------------|-------------------------------------|
| | | | | 薬量 | 希釈水量 |
| ポルトフロアブル (1回) | 一年生イネ科雑草(スズメカサネを除く) | 雑草茎葉散布または全面散布 | 雑草生育期 (イネ科雑草の3～10葉期、 収穫30日前まで) | 200～300mℓ | 通常散布： 50～100ℓ 少量散布： 25～50ℓ |
| 大豆バサグラン液剤(ナトリウム塩) (1回) | 一年生雑草 (イネ科を除く) | 畦間処理 雑草茎葉散布 | だいたいの2葉期～開花前 (雑草の生育初期～6葉期) 但し、収穫45日前まで | 100～150mℓ | 100ℓ |
| | | | だいたいの生育期 (雑草の生育初期～6葉期) 但し、収穫45日前まで | 300～500mℓ | |
| バスタ液剤 (3回以内) | 一年生雑草 | 雑草茎葉散布 | 収穫28日前まで 畦間処理：雑草生育期 株間処理：だいたいの本葉5葉期以降、雑草生育期 | 300～500mℓ | 100～150ℓ |

【雑草防除の注意点】

- ◆ 大豆の薬害を回避するため、「畦間処理雑草茎葉散布」は、必ず専用ノズルで散布。
- ◆ 残草は種子がつく前に圃場から刈りだし、種子の密度を下げる。



オオイヌタデ

- 生育初期は中耕培土の効果が高い。大豆バサグランの効果も高い。
- 遮光により生育を抑制できるため、大豆の生育を確保して被陰する。